

# 思い出の部活動

M「あら『部活で吹奏楽 クラリネット上達BOOK』？ Sさん、それどうしたの？」

S「私、吹奏楽部に入っていたので、展示しようかと選んでみました」

A「そういえば、みなさん、吹奏楽部に入っていたんですね～」

S・F「はい、中学生のときに」

M「私は、高校生のときだけだね」

S「中学生のときは別の部に？」

M「そう。中学校では、全員部活動に参加することになっていて……しかも運動部」

F「ちなみに、何部だったんですか？」

M「それは言いません」

F「え」

M「なぜ、あの部を選んだのか……！ 私の黒歴史よ」

A・S・F「(何部だったんでしょう……)」

M「吹奏楽部といえば、『響け！ユーフォニアム』よね！ 正直に言うと、ユーフォニアムがタイトルになるのってかなり意外だった。演奏では縁の下の力持ちのような役割をしていて、目立たないから」

A「そうなんですか？」

F「たしかに、希望の楽器を担当できなかった子が、泣く泣く担当するというイメージが……。大人になった今なら、音色のまろやかな感じが魅力的だとわかるんですが」

S「高校生のときには、マネージャー志望の子が多かったような気がします」

F「『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら』を棚で見つけて懐かしくなりました」

A「流行りましたね～」

S「実際にあそこまでの仕事をマネージャーがしていたかは謎ですが。4月は、進学して部を選ぶのも楽しみの一つですね。いい部を見つけて充実した学校生活を送ってほしいですね」

M「なんとなくまとまったところで、ここで一つ寂しいお知らせがあります。YAの良心であり柱であるAさんが去ります。さ、Aさんご挨拶を」

A「このたび担当を去ることになりました。大変お世話になり感謝申し上げます。

これからは、FさんとSさんが盛り上げていって下さると思いますので、これからもYAコーナーをよろしくお願いたします」

F「最後に笑顔ですごいプレッシャーを……！」

M「マジメねえ。ま、頑張りたまえふたりとも」

S「Mさんまで(泣)」 F「うう、頑張ります(泣)」

←ブログやってるよ！ <http://sanda-city-lib-ya.sblo.jp/>

# ホンダラケ

2020.4.1

## 部活動カタログ

本の中なら、部活動だってよりどりみどり。  
ぜひ、入りたい部を見つけてくださいね。

おなやみ相談部 みうら かれん 著

講談社 2015年刊 F/ミウ



「幻の部活、復活させてみないか？」

先生のその一言で、女子中学生・百木八枝の部活動ライフが始まります。

人の役に立つことを引き受ける環境部。部員ゼロのため、八枝はいきなり部長という大役を引き受けることとなります。部員は毒舌女王の友人・佳乃、人生五回目？の九十九、我流関西弁を操る門野。部員それぞれはでこぼこだけれど、集まればうまくかみ合い問題を解決していきます。ほのぼのとした読後感を味わえる物語です。

### ホンダラケとは

本誌は、読者の身も心も「本だらけ」にしてやろうという心意気から生まれた中高生向け小冊子です。本誌に登場する本は全て三田市立図書館本館のYA(ヤングアダルト)コーナーでご覧いただけます。

2か月に1度、年6回発行予定です。

ホンダラケは皆様の投稿をお待ちしております。YAコーナーに用紙・ポストがございますので、おすすめ本や本誌の感想・要望などお寄せ下さい。

# 青春読書記

～三田学園図書委員会より愛をこめて～

テーマは「花」。

春にふさわしい素敵なテーマですね

## 『櫻子さんの足下には死体が埋まっている』

太田 紫織：著 KADOKAWA Fオオ 2013年刊

この本は平凡な高校生、正太郎と、骨を溺愛するお嬢様、櫻子さんが織り成すミステリ小説です。この本の魅力は女性の登場人物に含まれる花の名前です。主要人物の櫻子さんはもちろん、純粋な心を持つ正太郎の同級生、百合子、朗らかな一方くらい過去を持つ櫻子の幼少期からの知り合い薔子など、花が人物の人柄を示しています。読んでみてください。P.N. やがてYになる (高校1年生)



## 新着図書 Pick Up

### 『乙女の本棚』シリーズ 立東舎



F/サカ

F/ハギ

文豪の名作を、現代の人気イラストレーターたちが挿絵で彩る『乙女の本棚』シリーズ。美しいイラストと文章が見事に融合しており、物語の世界へ引き込まれてゆきます。危うく戻ってこれなくなりそうに……。道に迷った主人公が不思議な町に迷いこむ『猫町』や、匠の弟子の耳男と長者の娘、夜長姫の残酷で妖しい日々を描いた『夜長姫と耳男』などいろいろな文豪の名作がありますので、ぜひ手に取ってお気に入りを見つけていただきたいシリーズです。

『猫町』萩原朔太郎+しきみ 2016年刊

『夜長姫と耳男』坂口安吾+夜汽車 2019年刊

## 『こんな本、棚から見つけました』のコーナー 15

☆このコーナーでは、スタッフが棚を見て“再発見”をした本を紹介します☆

### 『そのときあの人はいくつ? 何歳でも歴史はつくれる!』

監修 池上 彰 小学館 2008年刊

280.4 / 08

「中大兄皇子が大化の改新を行ったのが19歳だった。」「鑑真が中国・唐から日本に到着したのが65歳だった。」など、歴史上の偉人たちが何歳のときに何を起こしたかを年齢で分けて紹介した本です。こんな人がこんな年齢で!と驚きがあります。ご自身の年齢と比べてみても楽しいと思います。



## YA世代のために血を吐く思いで名作を紹介するコーナー 『イワン・デニーソヴィチの一日』

ソルジェニーツィン：著 木村 浩：訳 2005年刊 新潮文庫

まよう一日、彼はすごく幸運だった。営倉へもぶちこまれなかった。



983/ソル

スターリン時代のソビエト連邦(現ロシア)。強制収容所に入れられたシューホフの一日は、酷寒の朝5時から始まる。強制労働の合間に小金を稼ぎ、昼飯の粥は多めにいただく。看守の目をかわしつつ点呼をクリア。ああ今日も良い一日だったと就寝。どのような境遇にあっても、ほんのちょっといいことを探して生きていけば、明日もまたきっと頑張れるって教えてくれている気がします。ところで、何度読んでもタイトルと作者が覚えられません!ロシアの名前って難しいね!!